

四季報 冬号

第二百二十四号 (No.124)

芹沢文学研究会・会報

令和5(2023)年1月29日(日)刊行

◎ 芹沢光治良記念館 企画展 第2回

企画展「光治良の欧州体験 — 『孤絶』『離愁』と『巴里に死す』 —

寒風と
大雪降りて

八朔が

沢山落しし！

春まに遠し

松林庵主人

近くの方は沼津まで出掛けられる方は、芹沢光治良記念館を訪問し見学下さい。

☆ 第11回 芹沢光治良文学講演会 1月14日(土) 沼津市立図書館

沼津市教育委員会主催の「芹沢光治良文学講演会」が、沼津市立図書館で

1月14日(土)に行われました。定員180名、入場無料。演題は「西洋への

憧れ」で、講師は会員の鈴木吉維すずきよしかず神奈川県立沼津高等学校教諭

教諭 沼津市芹沢光治良記念館助産者さんです。会員の方で聴講

された方もいると思います。文学碑、一高からフランス語を学ぶ、パリ留学、結核闘病のこと等が語られたと思います。

芹沢光治良文学講演会のチラシ

★ 芹沢光治良文学愛好会の例会 第526回 12月18日

芹沢光治良文学愛好会の第526回の例会が12月18日(日)午後1時～5時に東中野区

民活動センターの洋室4号で行われました。会場が東中野区民活動センターに戻

りましたが、センターは旧東中野小学校跡地「東中野ウツ」に移転しています。

読書会のテキストは短編小説「巴里よ・さよなら」(昭和8年11月号、雑誌現代)発表。

大日本雄辯會講談社で、司会は芹沢耕太郎さんでした。連絡先 豊田英文 090-85214385

同封資料として他に、「わが青春」初めて知った家庭の味」「静岡新聞 昭和60(1985)年1

月26日(土)、「芹沢光治良のパリ時代展」(2022年令和4年10月15日(土))、「帯笑園の』

★ 「岡山 芹沢文学読書会」が2月19日に発会されます

芹沢光治良記念文化財団の最新情報として、岡山県に

新しい読書会「岡山 芹沢文学 読書会」が、この2月

19日(日)に倉敷市倉敷庄公民館で発会されること。近くの方は御参加を。

共同代表は桑田幸真・山本信夫・内田千秋氏で、問合せは091-767-5933番。毎月

第三日曜日 午後1時～3時。会費300円。自由な学びの場として、芹沢文学作品

★ 作家 加賀乙彦氏が1月12日に死去されました 93歳

作家の加賀乙彦氏が、1月12日に老衰で死去されました。93歳でした。1929年に

東京に生まれ、フランスに留学し精神科医で創作もしました。『フランドルの冬』『帰らざる夏』『宣告』『湿原』等多くの作品を書き、大河小説『永遠の都』『雲の都』も著作。文化功労者。大河小説派の作家が亡くなりました。同封資料をお読み下さい。

岡山 芹沢文学 読書会

◎ 同封資料 / ①新聞記事 「芹沢光治良と巨編師 共著する『健康法の謎』」 沼津朝日 令和4(2022)年10月25日付 ②コラム 「菅原園の『音の遺産』」 不破久温 「沼津朝日」 令和4(2022)年11月18日(金)に掲載 ③新聞記事 「加賀之塚さん死去、天啓人語」 2023年令和5年1月19日付、追悼文 「作家加賀之塚さんを懐念」 沼野至義 「朝日新聞」 同年1月24日付 ④児童書講話 「クリスマスにやせ」 芹沢光治良 少年クラブ十一月号 昭和22年12月1日 講談社 「中村輝子提供」

⑤学芸論議 「芹沢文学講話」 ⑥「ミオネ」に収録小説 「坂の上の家」 翌年後の生半端 菅原金雄著代表 小串信正

連載 金倉信正 No.82

第3回目の金倉順の金倉便りとして連載

今、思っていること

東京都練馬区中村北 野沢朝子

姉妹四人の中で一番弱かった私が最後に残り、九十三歳になりました。痛い所もなく、何でも自分でしていますが、父のように耳が遠くなって、目は父は白内障でしたが、私は緑内障という病気があります。折にふれ、自分の年令の頃の父を思い出しています。父と別れて三十年にもなりますが、何かと今も身近に感じます。

長い間愛好会に出席するのも楽しみでしたが、自分の感想は云えても一方通行で、皆様のお話が聞きとりにくくなって、この一年程遠慮するようになりました。その点、父は書くことで晩年になっても社会とつながり、沢山の見えない愛読者の支えも感じて、張り合いを持って幸せでした。

老年というのは、孤独に慣れなければなりません。それによって沢山の自由を手にするようになります。私は二階に娘がいますが、生活は別にして、二世帯で暮っています。テレビも音量をあげていますが、うるさがる人はいません。時に娘が来ては、テレビの音を小さくさくれますが、私には全く聞こえなくなりません。父も公園のスピーカーのような音量で見えていました。末の妹夫妻が海外から帰って同居するようになってから、気を遣ってテレビを見なくなりしました。老いた父には本当に気の毒なことでした。

昨年十一月に入って軽井沢に紅葉を見に行きました。昨年の紅葉は好天に恵まれ、この数年来一番美しい秋でした。着いた日の翌朝、ブラインドをあけましたら、朝つゆに濡れたもみじが朝陽に映えて庭中明るく輝き、思わず声をあげました。この光景を父と並んで見たかったと思えました。父は十一月の軽井沢は、疎開中の一度しか知りません。ガラス戸もなかった夏の別荘は寒く、お腹もすいていて、東京に帰ることしか考えなかったあの頃、紅葉の美しさを見る余裕などありませんでした。

◎ 芹沢文学研究会 2022年令和4年度 会計報告 反省と展望

* 会員各位 「会計報告」と「反省と展望」などを御了承下さい。

収入の部	前年繰越	84,188	・ 支出の部	切手代	13,000
	会費収入	42,430		文具代	3,798
	寄付収入	13,070		コピー代	26,610
		139,688			43,518
会計決算	139,688	-43,518	=96,170円(振替33,390+現金5,800)		

会計責任 小串信正 会計監査 田村正義

【反省と展望】

・ 芹沢文学研究会を31年間継続しました。しかし、総会も研究会もやれていません。年4回の四季報としての会報と同封資料(「芹沢文学講話」等を郵送しています。会費だけでは運営出来なくなりつつあります。これまでの蓄えで維持しているのが現状です。熱心な会員の寄付に支えられて継続しています。しかし、今後何とかが継続して行きたいと思えます。御理解と御協力をお願いします。

・ 芹沢文学研究会の入会案内を同封します。どうぞ、新入会員をお誘い下さい。財団、記念館、愛好会、愛読者の会、友の会、図書館、出版社、顧問の方々に会報をお贈りして来ましたが、これも縮小して行くかも知れません。共同研究が出来ていませんが、会員各位の個人的な研究や評論を期待しています。論文等を書きましたら、コピーをお送り下さい。今年度は、芹沢光治良先生の没後30年になります。何か記念出版を企画したいものです。

★ 新年度になりました、同封の払込取扱票にて年会費の納入をお願いします。今年度も年会費を1800円に据置きます。同封の郵便振替にて年会費の納入をお願いいたします。自主的な寄付も受入れます。どうか、よろしくお願ひします。

▽ 新入会員の紹介 新しい方の入会がありました。

58 熊登御堂 勝 大分県大分市松ヶ丘 芹沢文学・大分友の会の会員で研究会にも入会

☆ 編纂後記 ☆ 編纂責任 小串信正
会報第124号と同封資料をお届けいたします。新型コロナウイルスの第8波が少しずつ減りつつあります。外国からの旅行者も受入れ、観光地が賑やかになりつつあります。収束してはいませんが、政府は、5月8日から5類にしてしまおうとしています。広島でG7のサミットが開かれます。ロシアの独裁者プーチンのウクライナ侵略は続けられています。ロシア軍を追い出してしまえ!!